

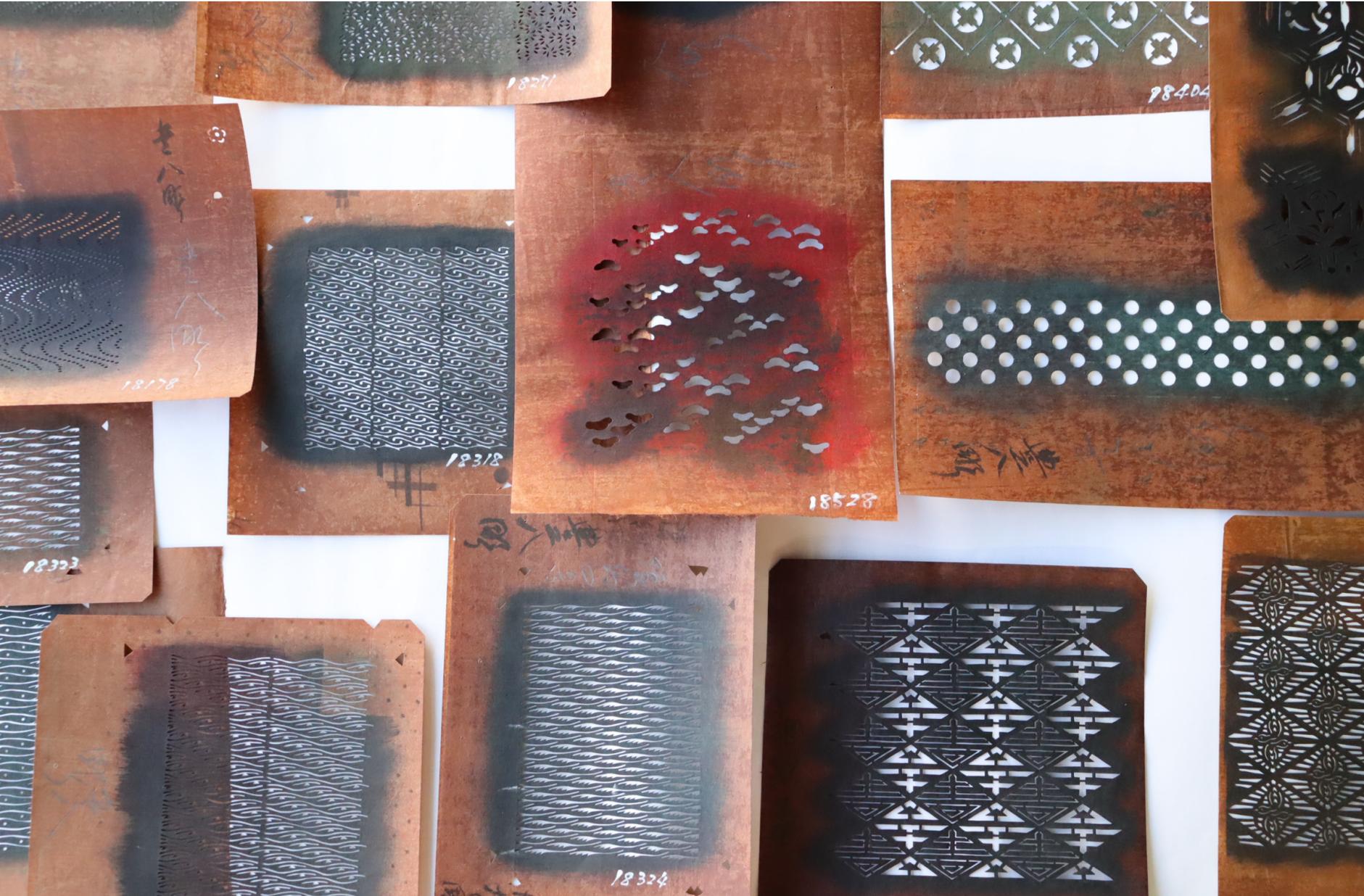
令和5年度
喜多方市文化芸術
創造都市推進事業

R5



であう

みんなの会津型プロジェクト



事業の目的

文化芸術創造都市推進事業では、「身近に文化財を楽しむまち喜多方」を目指し、令和2～4年度にかけて喜多方の染型紙「会津型」をとりあげ、「知る・楽しむ」をテーマとして事業を進めてきました。

令和5年度からは「会津型デザインの活用」をテーマに、さまざまな分野（教育・観光・商工・福祉など）と連携し、幅広く活用を図ることで、身近に文化財を楽しむまち喜多方を実現し、文化芸術の持つ創造性を地域振興にいかす取り組みを進めています。会津型は見て楽しむだけでなく、デジタルデータの利用等を通して誰もが気軽に触れられ、生活空間に取り入れられる汎用性の高い文化財です。会津型を通して文化に触れ、文化財を活用する機運を高め、それらが喜多方の豊かな文化に広がっていくことを目指します。

喜多方の染型紙「会津型」とは？

喜多方の染型紙「会津型」は、江戸後期から昭和初期にかけて、喜多方の小野寺家を通じて「販売・製造」された染型紙（以下「型紙」という）です。

喜多方市岩月町稲田にある小野寺家の本家の墓地には、「型珍」「形屋」「形室」といった一見職業のわかる戒名が彫られた墓碑があり、古いものは寛政期にまで遡ります。このことから、18世紀半ばには型紙の「販売」が行われていたと考えられます。

小野寺家は、「形屋」として伊勢型紙の仕入れを行う一方、型紙の「製造」にもあたってきましたが、いつから行っているのかは定かではありません。小野寺家蔵の文書には、安政3（1856）年に同家が例年通り仙台領で型紙の商いをしようとしたところ、その荷を差し押さえられたことが記されています。仙台藩では、その前年に自国の型紙産業振興を図るため、伊勢を除く他国製造の型紙の販売を禁止しており、特に会津と越後を名指ししていることから、少なからず会津産の型紙の存在を認識していたと考えられます。荷を差し押さえられた際、小野寺家が「伊勢型紙と地型（会津型）では雲泥の差があり、会津産の型紙は持ち込んでいない」と主張したのは、とても興味深いエピソードです。また、安政4（1857）年に小野寺家が会津藩の御用達を拝命した際、その祝宴に「形切八次郎」という人物を招いています。「形切」は型紙彫師のことであると考えられ、これらのことから遅くとも19世紀半ばには型紙の「製造」も行っていたことが推察されます。

明治になると、仙台にできた染工場といった大口の顧客と取引したり、需要に応える様々な種類の型紙を生産するなどして最盛期を迎えました。

こうして小野寺家は喜多方で唯一の型紙商として栄えましたが、戦時中における染料の不足など、時代の流れのなかで昭和10年頃に型紙商としての歴史に幕を閉じます。そして、小野寺家の蔵に残されていた3万6千点を超える型紙と、彫刻刀などの道具類、帳簿や見本帳などが市へ寄贈され、「会津の染型紙と関係資料」として、平成15年に福島県の重要有形民俗文化財に指定されました。

※染型紙とは…渋紙（和紙を柿渋で貼り合わせて加工した丈夫な紙）に彫刻刀で模様を切り抜いたもので、模様を染め出すための道具として主に布に用いられる。



会津型の3分の2を締めると言われる緋柄は、緋織を模して作られたと言われます。商品として生産された型紙の余白には、産地や流通経路を表す「商印」が押されていることも多いです。



見本帳。上：小紋の小さな点や模様。下：ページごとに色合いを変え、色彩豊かに作られています。



今年度の事業

「会津型デザインの活用」をテーマに、次の3つの考えから、『リ・デザイン』をキーワードに事業を進めました。

鑑 ー

「活用できる」のは、原本があっこそ。本物に触れ、学ぶ機会を作ります。

デ ザインする ー

会津型のデジタルデータは自由に利用できます。使って楽しめる文化財を目指します。

暮 らす ー

観光や商業、教育、福祉など、さまざまな分野との連携を目指します。

Redesign

リ・デザイン…「再設計」という意味で、一度完成したものを新たなニーズや暮らしに合うように作り直すこと。デンマークの家具デザイナー コーア・クリントが提唱した「伝統を切り離すのではなく真摯に向き合い、新たに作りなおす」というデザインの手法にも使われる。

市民参加型

1. 会津型 × 高校生 – 蔵の里展示リ・デザイン



どんなふうに会津型を伝えたいか考えながら、高校生たちと会津型を紹介する展示をつくっていきました。

0. 合同勉強会 – 喜多方高校 × 桐桜高校 × 貝沼航氏

i. 会津型を彫る – 喜多方高校 × 那須恵子氏

ii. 会津型で染める – 桐桜高校 × 会津型研究会

iii. 会津型を展示する – 喜多方高校 × 桐桜高校 × 佐藤哲也氏

2. 会津型ウィーク「文化財 × リ・デザイン」



展覧会を中心に、トークやワークショップなど、みんなで会津型をたのしむイベントを開催しました。

i. 展覧会「柄をたのしむ、柄とくらす」

ii. ポップアップストア 食べるくつろぐ会津型

iii. 会津型ワークショップ 会津型 × 柄 × 柄

iv. クロージングイベント

伝統や文化の リ・デザインを考えてみよう

- ① 成果発表「未来の会津型」
- ② 対 談「伝統工芸 × リ・デザイン」
- ③ 座 談 会「会津型 × リ・デザイン」

3. 教育普及



i. レベル別講座の充実

ii. さわれる会津型カタログ

4. 会津型オープンデータ



i. ダウンロード用ページ公開

ii. デジタルデータ使用規定の変更

1.

会津型 × 高校生-蔵の里展示リ・デザイン

伝統的なものの成り立ちや特性を伝えるプロデュースを学び、自分たちのまちの会津型のどんな部分を見てもらいたいかなを考えながら、みんなで会津型の展示を作り上げます。

昨年度までの事業「きたかた会津型ミュージアム事業」(R2~4)のなかで、地元の高校生たちとの連携が生まれました。喜多方が「身近に文化をたのしむまち」になっていくためには、未来のオトナたちに「文化はたのしい」ということを知ってもらうのはとても重要です。これまでの勉強会などを通じて、約30年前に制作された蔵の里の展示内容の見直しが必要だということも見えてきたなかで、高校生たちが文化財をたのしむ機会として、蔵の里リ・デザインを共に考えてもらいました。この事業に関わってくれた生徒以外の高校生をはじめ、中学生や小学生といった未来のオトナたちがより楽しめるものにしていくために、高校生たちの視点が必要と考えました。そして、高校生たちと連携することで、教育分野のなかで文化財をただ伝えるのではなく、いかしていくために、共に考え、形にすることができました。

スケジュール

6/3

合同学習会

場所:蔵の里

- ①会津型レクチャー 講師:喜多方市教育委員会文化課 学芸員 木幡 江里子
まずは文化財会津型について学びます。
- ②プロデュース論-会津の伝統「漆」を伝える- 講師:貝沼 航さん
会津の漆の魅力を独自の方法で伝える貝沼さんにお話をお聞きます。
- ③グループワーク「わたしたちの会津型?」
蔵の里展示に向けて、会津型のどんな部分を伝えたいか話し合います。

6/14

1.会津型を彫る

場所:喜多方高校美術室

①会津型型選び

学習会で考えた会津型の魅力を伝えるためにどんな柄がいいかみんなで考えます。

②型紙レプリカ制作 講師:那須 恵子さん

型紙の彫り方や、伊勢型紙職人の仕事についてお聞きしながら型紙を彫ります。

15

6/16

2.会津型で染める

場所:染織工房れんが

①糊置き 講師:会津型研究会のみなさん

柄を染めるための最初の工程である「糊置き」を行います。

②藍染め 講師:会津型研究会のみなさん

糊置きした布を、天然の藍を使って染める作業を行います。

21

9/16

3.会津型を展示する

場所:蔵の里

①計画する 講師:佐藤哲也さん

会津型をどのように展示すると魅力が伝わるか考えます。

②展示してみる 講師:佐藤哲也さん、原忠信さん

展示計画を試作してみて、みんなで考えた会津型の魅力が伝わるか現場で考えながらブラッシュアップしていきます。

22

10/29

会津型ウィーク

場所:あずまさ別棟

①クロージング 会津型×高校生の発表

展示までの流れを紹介し、体験してみた感想を発表します。

○ 合同勉強会 - 喜多方高校 × 桐桜高校 × 貝沼航氏 かいぬまわたる

会津型がこれからもみんなにたのしんでもらえるものであり続けるために、まずはその魅力は何なのかをみんなで考えます。今回ご参加いただく喜多方高校と、桐桜高校の有志の生徒さんたちの合同勉強会を行いました。

今日の講師は漆器の商品プロデュースをされている貝沼航さんです。伝統的な方法で漆器を作るための時間に合わせて受注の時期を決めるなど、漆がどんなふうにも人や自然に育てられるのか、その手間暇や時間を慈しんでほしいという思いが伝わってきます。そんな貝沼さんにお手伝いいただきます。

まずは会津型について学びます。会津型の歴史や、染型紙とは何かについて解説し、その後貝沼さんのお話をお聞きします。これまでの経緯や商品づくりへの思いを語っていただきました。新しくてカッコいいデザインの漆器を作って一時話題になったものの続かず、どうやって責任を持って届けるかが大切だと感じたことが契機になったそうです。そうした経験から、「学ぶ・考える」

「作る・創る」「伝える・繋ぐ」の3つを繰り返していくことを大切にしていると話してくださいました。

最後に、貝沼さんの案内でワークシートを使って会津型に感じた魅力を深掘りしてみます。ワークシートに書かれている「友達に会津型のいいところってどんなところか聞かれたらなんと答えますか？」という質問に、まずは各々で書き込みます。3~4人のグループに分かれ、質問にどう答えたかグループ内で発表します。その答えについて質問、グループ内でさらに深掘りする質問をしていきます。例えば、「柄がたくさんあるところが魅力です」という答えには、「どんな柄がいいと思いましたか？」といった質問をしていきます。「いいな」と思ったことを説明するのは意外と難しいものですが、会話をしながら、新たな発見をしたり、自分のなかで整理されていきます。貝沼さんが伝えてくださった3つのサイクルを、小さく体験できる時間でした。

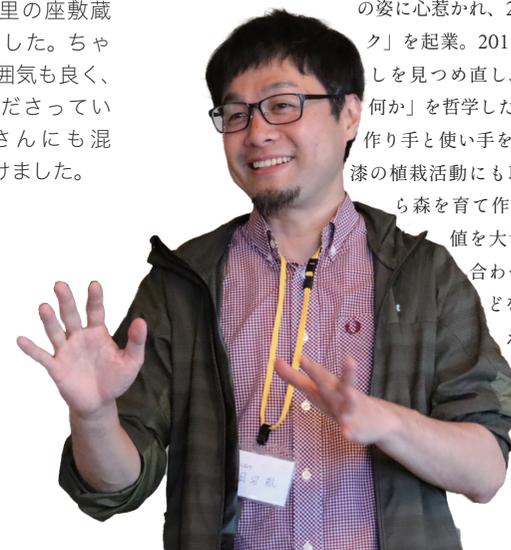


メモをとりながら真剣に聞いてくれる高校生たち。「会津型ってかわいいんだ」と言われ、思わずもっとあるよ、と説明してしまう文化課でした。



かいぬまわたる
貝沼航さん

会場は、蔵の里の座敷蔵をお借りしました。ちゃぶ台を囲む雰囲気も良く、見学に来てくださっていた大人の皆さんにも混ぜていただけました。



漆器の工房を訪れた際、会津の職人たちの姿に心惹かれ、25歳の時に「漆とロック」を起業。2011年、震災を期に暮らしを見つめ直し、数年間「漆の器とは何か」を哲学した後、現在の活動を開始。作り手と使い手を繋ぐ産地ツアーや国産漆の植栽活動にも取り組む。縄文時代から森を育て作ってきた「漆器」の価値を大切に、自然のリズムに合わせた受注期間の設定などを通じて漆の美しさを伝える商品プロデュースを行う。

i. 会津型を彫る - 喜多方高校 × ^{なす けいこ}那須恵子氏

蔵の里に展示するためのレプリカの会津型を制作します。産業としてはすでに途絶えてしまった会津型。喜多方に現在職人さんはいませんが、今も伝統の技が残る伊勢型紙の職人である那須恵子さんに、型紙の技術や職人の仕事について教わりながら制作します。自分たちで制作することで、型紙の制作過程を体験し、見るだけでは伝わらない会津型の魅力に触れてもらいます。喜多方高校美術部・生活部のみなさん10名が有志で参加してくれました。

事前にどの柄のレプリカを展示するとか高校生たちと決定しました。合同勉強会で高校生たちが出してくれた意見を整理して、「緋」や「季節を感じる柄」などの6つのテーマから候補を選び、そのなかから話し合っ決めました。

当日、まずは講師の那須さんより、伊勢型紙についてのレクチャーと型彫りの実演をしていただきました。職人の仕事や技法の違いといった型紙についてのお話をしてくれました。そ

後の実演では、実際に日々使われている道具の解説を加えながら、彫りの作業を見せてくださいました。よく「型彫りだけして欲しい」とお話しされる那須さんですが、ラジオ番組のようなゆったりしたい空気を作ってくれます。

型紙を彫る作業は、星と呼ばれる送りの印の位置を決めることから始めました。那須さんが手元にあるもののできる方法を考えてくださったこともあり、教える方も教わる方も悪戦苦闘。一枚の型紙で連続した柄をつくる方法とその知恵が理解できた貴重な時間でした。

星の位置が決まったら柄を彫りますが、ようやく彫れるかと思ったところで、柄につながる部分がある型紙を選んだ生徒さんたちはもうひと作業です。（※柄の端が型紙を跨いで繋がることで、連続した模様に見えます。）型紙を連続して染めるときに繋がりがうまくいくように「送り」で、繋げる作業をします。細長く切った渋紙をこれから彫る柄の

手前側の端に重ね、先ほどつけた星と柄の重なった部分を彫り、今度は柄の上の端の星に合わせ、柄と柄が繋がるように彫ります。

ここまで来ると、あとはひたすら彫り進めます。那須さんは、作業を見守りながら、それぞれが選んだ型紙に合わせて彫り方のアドバイスをしてくれました。

型紙彫りの作業は、不思議なほどにいつも子どもたちの集中力を引き出してくれます。時間内に完成しなかった分は文化課でサポートしようかと相談していましたが、部活の時間を使って完成させてくれました。



地金という金属を自分で研いで、刃物をつくるころからが彫り師の仕事だそうです。「少しでも切れ味が鈍ったら研ぎます。上手に研げて一人前。」と、道具の大切さを教えてくれました。



なす けいこ
那須 恵子さん

8年間印刷会社で商業イラストを制作。退社後、伊勢型紙と出会う。2010年に彫師を志し鈴鹿市に移住して突彫りの職人である生田嘉範氏に師事。伊勢型紙彫刻組合に加入し、工房内独立。2018年LEXUS NEW TAKUMI PROJECT2018 三重代表に選出。2018年版・2021年度版三重県民手帳のデザイン・型紙制作を担当。三重県より中堅優秀技能者として表彰。（凛九ホームページより）

ii. 会津型で染める - 喜多方桐桜高校 × 会津型研究会

①糊置き

「染型紙」を用いた伝統的な染色方法を学びながら、会津型の染め上がりの資料を制作します。できあがった染型紙レプリカの一部を使って、型染めの仕組みを学び、かつてどのように染型紙が使われていたのかを学びます。参加してくれたのは、桐桜高校の8名のみなさんです。

この日の作業は「糊置き」です。この「糊」は、餅米や糠などで作られていて、布に乗せて乾かすと繊維がコーティングされ、染料で染まらず白く残す部分を作ることによって柄を染め出します。会津型研究会さんで準備してくださいました。布の上に置いた型紙の上からこの糊をデワベラという道具を使って置いていきます。

実演を交えて説明していただいてから作業を始めました。コツは糊をしっかり

繊維のなかに入れ込むように力を入れることだそうです。デワベラに糊で型紙が貼りついて浮いてしまうと、型紙がずれて柄が崩れてしまいますが、貼りつかないようにコントロールしたり糊の量を調節したりするのが難しいです。生徒さんたちも、力加減に苦労しながら作業してくれました。

準備に指導にフォロー...粘り強くサポートしてくださった研究会のみなさん、会津型の伝統的な面を大切に活動されてきたみなさんがいてこそ実現した事業でした。



「糊」は少し香ばしくて甘い香りがします。

あいづかたけんきゅうかい 会津型研究会

会津型が文化財に指定される際、資料の整理に尽力した。会津型の美しさや奥深さを広めるための活動として、型彫り体験の受け入れや講師の派遣などを行う。染織工房れんがでは、型を新たに彫り直し、現代に蘇らせる活動をしてきた。型を使った藍染めの作品の制作も行う。現会長の冠木昭子氏は2023年2月、公益財団法人福島県文化振興財団の顕彰を受ける。



ii. 会津型で染める

② 藍染め

この日も、会津型研究会のみなさんが藍の準備をしておいてくださいました。到着すると、藍色と緑とグレーが混ざったような不思議な色をした藍甕をかき混ぜているところでした。そこに浮いているふわふわした塊は“藍の華”といって、藍が染められるようになった印だそうです。

生徒さんたちが短い時間で体験できるように、金属でできている伸子という道具を布に取り付けて準備しておきます。伸子は片方を刺すともう片方が抜けてしまったり、なかなか思い通りのところに刺さらなかったりです。伸子は少し重みがあるので、染液の中で布同士がくっついたりしてムラになるのを防ぎます。

藍染は、染液に浸して日光に当てながら乾かすという作業を何回か繰り返すことで、色を濃くし、定着させます。今回の目標は3回。ここからの作業を生徒さんたちにお願ひしました。伸子

を持ってシワにならないように染液に1分ほど浸し、日光に当たるように広げて干します。染液から引き上げた布ははじめ明るい緑色をしていますが、陽に当たると徐々に紺色に変わります。この日は天気恵まれ、藍と太陽という自然の力を借りて布を染める昔ながらの知恵を見ることができました。

干した布は時間が経つと染液が下の方に溜まってくるので、天地を返してムラになるのを防ぎます。どのくらいで返すといいのか、研究会のみなさんにお聞きしながら、みんなで作業を進めました。

3回の染めの作業が終わると、水洗いをして染液や糊を落とします。工房では、地下水をポンプで汲んだとても冷たい水を使います。慣れない手つきで洗っていると、研究会の会長冠木先生がやってきて、「布を水の中で振るように洗いなさい。昔は川でこうやって洗ったの。全部自然のものだったから、川に流しても平気でしょ。」とお手本を見せながら教えてくれました。それでもやっぱり上手に落とせないの、一枚の布を手分けして丁寧に洗ってく

れました。薬品で色止めをし、最後にもう一度水で洗って干すと、この日の作業は終わりです。



iii. 会津型を展示する

— 喜多方高校 × 桐桜高校 × 佐藤哲也氏

① 計画する

参加してくれたのは、桐桜高校の喜多方高校美術部のみなさん 10 名と、桐桜高校の有志の生徒さん 1 名です。



型紙のレプリカと染め上がりの資料もできあがり、今日からはこれまでの経験をふまえて蔵の里の新しい展示計画を考えます。

地域にあるものの良さを活かしながら新しいデザインを作り出していく佐藤哲也さんに一緒に考えてもらいます。まずは、佐藤さんよりこれまで手がけてきたデザインについて、事例や大切にしていることとお話いただきました。よく見るとたくさんの鯉節で構成されている乾物屋さんの暖簾など、伝えるための方法は自由で楽しい方がいいと思えるお話がたくさんでした。

お話のあとは、グループワークで蔵の里の展示のコンセプトを考えていきます。付箋を使ってどんどん思いついたことを書き出し、出てきたアイデアをみんなでまとめます。テーマは「会津型の魅力を誰に知ってほしいか？」と「会津型のどんな部分を伝えたいか？」の二つに分けることで、より具体的に考えられるようにします。

出てきたアイデアをキーワード毎

に整理すると「会津型のデザインの美しさと技術力を若い人たちに伝える」というコンセプトがまとまりました。会津型勉強会、レプリカと資料の制作と、様々な面から、多くの時間会津型に関わってもらった高校生たちが考えてくれたコンセプトです。

まとまったコンセプトをもとに、展示計画のアイデアも考えてみます。高校生たちが考える展示案は、「彫るのが難しいランキング」や、「かわいい型紙と、かっこいい型紙のランキングをそれぞれ作ったらどうか」など、会津型を知っているからこそだと思わせてくれました。「同世代を対象にしているから、説明文よりも視覚で伝える」といった意見が出たり、しっかりとコンセプトを受け止めてくれる頼もしい高校生たちでした。

さとう てつや
佐藤 哲也さん

デザイン事務所 Helvetica Design 株式会社代表。
2019年、空きビルをフルリノベーションし、まちづくりの拠点 Blue Bird apartment. をオープン。2020年エリアリノベーション事業を行う一般社団法人ブルーバードを設立。JR 郡山駅の観光案内所内の D&DEPARTMENT FUKUSHIMA by KORIYAMA CITY パートナー。地元郡山市をはじめ、東北の息の長いデザインを発掘・紹介するなど、さまざまなデザイン活動を展開。



iii. 会津型を展示する

② 展示してみる

参加してくれたのは、桐桜高校の喜多方高校美術部のみなさん10名です。

前回できあがったコンセプトと展示計画を現場で形にしながらかえます。コンセプトをもとにアイデアを整理して、蔵の里の壁面パネル、ガラスケース、小あがりの3つのチームに分けて今日考えてもらうテーマを準備しておきました。前回に引き続き佐藤さんと、今日は筑波大学の原忠信先生とゼミ生のみなさんにも参加してもらいました。

作業したりチームで話し合ったりする場所が展示室内では狭すぎたので（文化課チームの準備不足でした...）みんな外に出て木陰や段差にいい感じに場所を作りました。様々なアイデアが出てきたときに「コンセプトに立ち戻って考えるとより良い方はどちらかな？」とそっとサポートしてくださる大人たち。気候のいい季節の夕暮れどき、大人と高校生たち、違う立場のひとつひとつが模造紙のまわりに輪になって話あ

っている姿は、こんな時間が当たり前にあるまちになってほしいと思わせてくれるものでした。最後にアイデアをみんなで発表しあって終わりました。

高校生たちの新鮮な視点からのアイデアは、年度末に一つ「会津型パズル」という形で実現しました。「見て伝わる」「体験できる」展示にしたいという意見から生まれた会津型パズルは、蔵の里で手にとって遊んでいただけます。また、残りのアイデアたちも、蔵の里に入って右側のエリアと合わせて次年度形にしていく予定です。

自分たちで工夫して寸劇で発表してくれたチーム。



課題

必要なこと

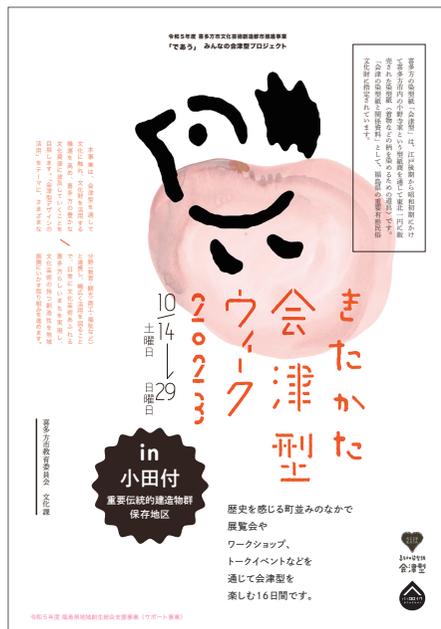
パネル	視覚で伝える。見て楽しめるか。「てまひま」をどう伝えるか。	会津型のデザインの美しさを伝えるパネル5枚の内容を考えよう。
ガラスケース	型紙のよさ、性質が見て伝わる展示方法か。	みんなで作った型紙や資料をどう展示すると伝わるか、実験してみよう。
小上がり	会津型のおもしろさを体験できる場を作りたい。	「てまひま」を体験できる仕掛けを考えよう。

各チームにそれぞれの課題を考えてもらいました。

2.

会津型ウィーク「文化財×リ・デザイン」

文化財の活用は実物があってこそ、ということから、会津型を見ていただく展覧会を中心に、トークやワークショップなどのイベントを開催しました。小田付伝建地区の伝統的建造物となっている旧大森家を展覧会会場にお借りし、喜多方の地域資源に新しく出会ったり、改めて見直したりしていただける場を作れたことは、とても貴重な機会となりました。



会場 旧大森(唐橋)家住宅

1 展覧会

がら
柄をたのしむ、
がら
柄とくらす 10/14-29

会津型の「柄」を、喜多方に残る様々な文化財のなかの「柄」と比較することで、喜多方の柄をたのしみ、見終わったあとでそれぞれの「会津型」を見つける展覧会。御田植祭や彼岸獅子などのなかにある柄と会津型を並べて展示しました。



担当学芸員による展示会場とカフェをめぐる
解説ミニツアー 10/15,22



会場 あづまき別棟

2 ポップアップストア

食べるくつろぐ会津型

期間限定の会津型をテーマとしたカフェ。

- ① 会津型 カフェ 10/15.21.22.28.29
小物や内装に会津型をあしらった空間で、会津型ウィーク限定メニューを楽しめます。夜は明かりを利用した大人のカフェに。
- ② 映画会 @会津型カフェ 10/14
会津型カフェで、ポップコーンとクラフトコーラを楽しみながら映画を鑑賞しました。



会津型ワークショップ

図案 & 染 × 染 10/14

筑波大学ビジュアルデザイン領域の原忠信准教授とゼミ生たちによるオリジナルの会津型をつくるワークショップ。型紙にするにはどんな工夫が必要か一緒に考えながら、大人も子どもと一緒に型紙作りに挑戦し、最後は発表し合って終わりました。オリジナルの型紙を作るというのはこれまでの事業のなかでは新しい試みでした。



はら ただのぶ
原 忠信さん

ソーシャルデザイナー。筑波大学 准教授。米国と日本にて、Apple、Coca-Cola、PIXERなどのブランド構築プロジェクトに携わる。近年は籠を自転車で運びご飯を炊く「籠プロジェクト」など、体験をブランドエクイティに結びつける方法について研究。雪山で漆器を使うなど一年を通して漆器をめぐるツアーの「back to japan.」や小田付地区の標識プロジェクトなど、喜多方での活動歴多数。



3 クロージングトーク

伝統や文化の
リ・デザインを考えてみよう

伝統的なものをリ・デザインしていくということ、会津型のこれからについて考えました。学生さんたちが取り組んでくれたプロジェクトについてのお話と、それについてプロフェッショナルたちからコメントをいただいたり、昨今の伝統工芸についてお話いただいたりなど、盛りだくさんの時間でした。文化財である会津型を切り口にさまざまな立場のみなさんが集まり、言葉を交わしてできあがった会場の温かい雰囲気は、明るい未来を予感させてくれました。

① 「未来の会津型」

喜多方高校、喜多方桐桜高校、会津支援学校高等部、筑波大生ら、未来のオトナたちによる会津型プロジェクトの成果発表。

② 対 談 「伝統工芸 × リ・デザイン」

岡本 幸樹氏 (株式会社ピハナコンサルティング代表取締役)
那須 恵子氏 (型屋2110 伊勢型紙彫師)

③ 座談会 「会津型 × リ・デザイン」

会津型のこれからのために、様々な分野の方からお話をお聞きしました。

ゲスト | 岡本 幸樹氏、那須 恵子氏
会津型研究会
貝沼 航氏 (漆とロック株式会社代表)
佐藤 哲也氏 (ヘルペチカデザイン株式会社代表取締役)
原 忠信氏 (筑波大学准教授)



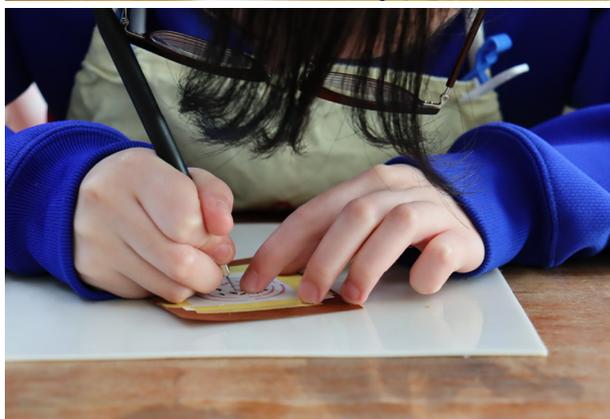
3 ● 教育普及

i. レベル別講座の充実

会津型 ×
福島県立博物館 ×
会津支援学校

くるくるとんとん会津型

福島県立博物館にお声がけいただき、地元の文化を伝える会津型を通じて支援学校の生徒さんたちの力になれないだろうかという話が持ち上がりました。ちゃんと伝えることができるか、たのしんでもらえるか、不安もありましたが、支援学校の生徒さんたちとの関わりを通じて、会津型はさまざまな能力に合わせた展開ができることがわかりました。文化を学ぶ、デザインする、彫る、色さしをするなど、ひとつひとつの工程を個性に合わせて提供する、そのことは、会津型ではなくても、それぞれの個性やペースに合わせて寄り添おうとすることが大切だということを改めて教えてくれています。今後、もっと誰もが身近に文化を楽しむまちを目指していくために、とても大切なことを教えていただく時間となりました。



授業の初めから終わりまで集中し続けるのが難しいということから、最初の授業では別室で作業をしていた生徒さんたちもいました。4回の授業のなかで、先生たちも様子を見ながら調整してくださり、最後はみんな同じ教室と一緒に作業することができました。この成長はなんなのだろうと思っていましたが、先生が「自分で完成させられるという実感が持てるのが、生徒たちにとって良かった」とお話してくださいました。

令和5年度の福島県立博物館と会津支援学校の関わりでの成果展でも、会津型の事業を成果物と合わせてご紹介いただきました。

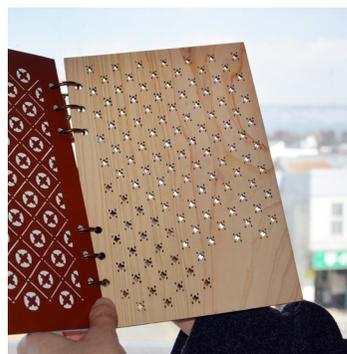


ii. さわれる会津型カタログ

会津型のデザインをみなさんに楽しんでいただくカタログを制作しました。保護・保存の観点から、実物を触っていただくことのできない会津型。渋紙の厚みのなかのわずかな立体感といった、写真では伝わらない魅力を何とかお届けすることができないかというところから、このカタログは始まりました。レーザーカットで柄を掘り抜いた表紙や中表紙は、触って柄を楽しんだり、会津型の構造を理解することができます。四季の花々やユーモラスな生き物たち、伝統的な柄からモダンでおしゃれな柄まで、日常生活のなかで私たちの心を楽しませてくれる会津型のデザインを 11 のテーマに分けてご紹介しています。

はじめて会津型に触れる方にもわかりやすくその魅力を伝えるツールとして学校・公民館・図書館等での講座やワークショップでの活用を図ります。また、触ってたのしむことができるという観点から、福島県立視覚支援学校にもお届けしました。

小さな米紋の柄柄を表紙に選びました。会津型の特徴と言える拵と、喜多方を語るのに欠かせないお米をモチーフにした柄です。米紋一つ一つの表情が違います。墨書の魅力や、古くなった渋紙の風合いなど、まだまだ再現不可能なものもありますが、プリンターや写真でなく、物質感を得た会津型の魅力が少しでも伝わりますように。



会津型の講座などでも、染型紙の構造などを説明するのに苦労しましたが、「柄を彫り抜いた丈夫な紙」のイメージは伝わりやすくなりました！



4.

会津型オープンデータ

i. ダウンロード用ページ公開

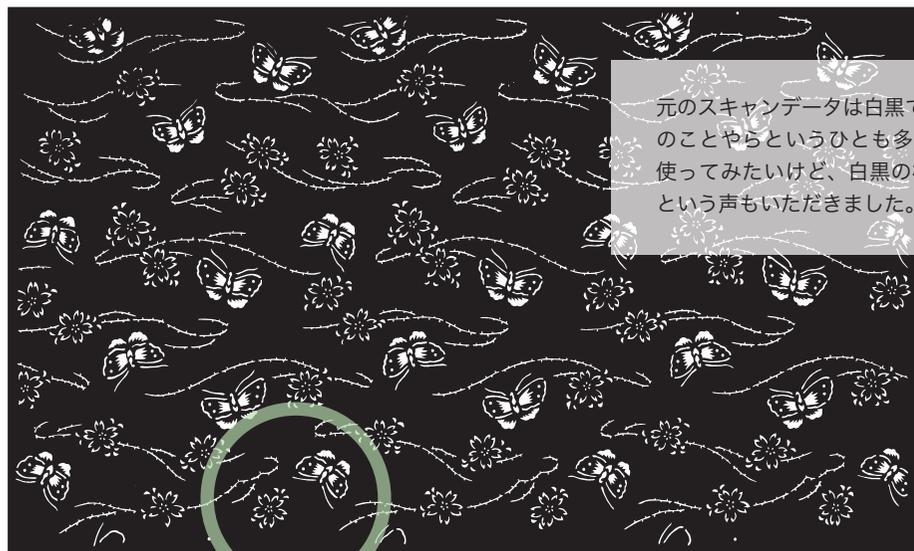
会津型が県の文化財に指定される際に作成された、3万7千点近い型紙のスキャンデータがあります。20年近く前のものなので、白黒データであることや、画素数やデータの形式、折れ曲がったままスキャンされたものなど...課題はありますが、まずはできることとして、みなさんが日常で使いやすい形に加工して公開しました。

会津型のスキャンデータは数が多いだけに、一度に全てを解決することは難しいです。しかし、さまざまな活用を通じて会津型の価値をさらに広く共有しながら、より多くの人にたのしんでいただく形を考えていきたいです。

ii. デジタルデータ使用規定の変更

遠方の方にもお使いいただけるようにしたり、より使いやすく規定を変更しました。

会津型のデザインを
使ってみたい方は
こちらから ▶



元のスキャンデータは白黒で、400dpiのtiffデータ。なんのことやらというひとも多いかと思います。会津型の柄を使ってみたいけど、白黒の柄をどうしていいかわからないという声もいただきました。

14583



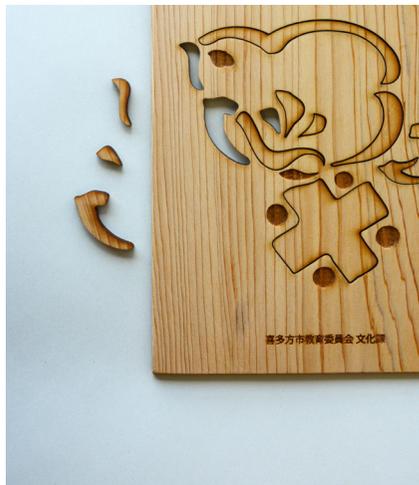
パソコンで資料などを作成する方には近年親しみのあるものとなってきたフリー画像の配布サイトを参考に、みなさんが使いやすい形を想像しながら型紙の一部でデータを作成しました。



おわりに

令和5年度は、リ・デザインをキーワードに特に「広がり」を目指して展開しました。会津支援学校との思わぬ出会いがあったり、会津型を使ってみたいとの声も多く聞こえるようになり、想像していた以上の広がりを見せてくれています。この記録集を作りながら、改めて関わってくださった多くの皆様にたくさん助けていただけたことを実感しています。一生懸命取り組んでくれた学生さんたち、プロフェッショナルたちの知識と技術、会津型をたのしんでくれたみなさまのおかげで素晴らしい事業となりました。ありがとうございます。

さまざまな活用のあり方も見えつつあり、オープンデータといった文化財そのもののあり方の整備も始まりました。新しい開かれた会津型と、ありし日の会津型の両方を大切に令和6年度も事業を進めていきます。



会津型 × 高校生の事業で生まれた会津型パズル。会津型の柄をたのしむ新しいアイデアが形になりました。子どもから大人までたのしめます。

柄がぬけるタイプも制作しました。